

地域生活実現プロジェクト

川口市社会福祉審議会障害者福祉専門分科会

委員長 田中恵美子

【なぜプロジェクトが必要なのか】

障害福祉計画の作成は2006年から始まり、次期で7期となる。本計画は、どんな重度の障害のある人でも住み慣れた地域で暮らし続けるために必要とする障害福祉サービスを確保すること、またそのサービスを適切に使うということを目的としているが、実際には今日まで施設入所希望者の数は減少せず、むしろ年々増えているという。

このような状況を改善し、障害があろうとも川口市民が住み慣れた地域で暮らし続けられるようにするためにはどうしたらよいか、実態に即した実践を試行し、そこから必要なサービス量を見積ることで、次の計画を川口市の現実的に即したものにしていけることが求められている。

【次の計画までに実施すべき内容】

1. 実態の把握

- ①施設入所待機者
- ②ショートステイのロング利用者
- ③虐待やDVの被害者

上記に該当する障害者の実態を把握し、生活の継続を困難にさせている要因を具体的に把握する。

2. 1.の中で緊急性や在宅生活の困難性に応じて優先順位の高い者から選択して地域での暮らしを実際に試行する→個々に応じて住居の確保や必要なサービスの見積りなどを行い、実際に地域での生活を試行する。

3. 試行によって実際にかかったサービス量等を見積り、次の計画に活かす(第8期)